

令和6年度 学校自己評価システムシート（埼玉県立春日部女子高等学校）

目指す学校像	高い志を持ち、夢をあきらめない生徒の育成を目指す、伝統ある女子の進学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 主体的に学習に取り組み、自らの目標を達成できる生徒の育成 2 文武両道を目指し、何事にも全力投球する生徒の育成 3 ユネスコスクールの自覚と活動の下、開かれた学校づくりを進め、地域社会及び国際社会に貢献する生徒の育成
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			3 年 度 評 価 (1 月 31 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ○卒業の教科指導も含め、教師はファシリテーターである意識が必要である。 ○授業に対し自ら参加する、学びあう環境づくりが必要である。 ○「授業が分かる」回答95%、学習量増、学力向上は、教職員の努力の成果である。 ○ICT活用について、その進化を教職員も生徒と共に学びながら活用することが大切である。 ○若者は無駄を排し時間対効果を重視する傾向がある。進路指導についても推薦へ切り替える時期プロセスを明確化する必要がある。 ○総合型選抜、推薦型選抜を念頭に、面接、討論などの言語化力の育成が重要。 ○問題解決力のみでなく問題発見力、未来逆算志向を取り入れてもよい。 【課題】 ○Docuworksの全教職員への普及による業務効率化 ○地方国立大学への転換とともに、総合型選抜、推薦型選抜に向けた進路指導体制の見直し ○推薦型選抜を第一志望とする生徒の「高い志を持ちあきらめない」進路指導	①組織的な授業改善及び学習意欲や学力向上の取組 ②第一志望の実現に向けた組織的な進路指導の実施	・教科会あるいは教員個々による授業改善の継続 ・ICT機器を活用した指導方法の開発と主体的な学びの実現 ・春の手帳、Classi、スタディサポート等の活用による自主的・計画的な学習を促す指導の充実 ・総合的な探究の時間を通じた学際的な学びの実践 ・大学等と連携したプログラムの実施 ・進路指導部と学年の連携による進路指導の充実 ・進路集会や進路通信による進路意識の維持向上 ・模試の分析会や出願指導検討会を踏まえた二者面談・三者面談等の充実 ・生徒の第一志望宣言による目標の明確化及び高い進路目標の維持 ・進学補習の充実	・学校評価アンケートによる「授業が分かる」回答は、95%超か ・ICT機器を活用した授業は増加したか ・春の手帳、Classi、スタディサポート等を活用することにより、学習を自己管理する習慣が定着したか(学校評価アンケートによる) ・総合的な探究の時間の意義を見込んでいるか(学校評価アンケートによる) ・大学等と連携したプログラムの実施例 ・学校評価アンケートによる「進路情報や面談が進路決定に役立つ」回答は、85%超か ・模試の分析会や出願指導検討会を踏まえた二者面談・三者面談等の充実 ・生徒の第一志望宣言による目標の明確化及び高い進路目標の維持 ・進学補習の実施状況			
2	【現状】 ○部活動加入率向上のため、校内部活動間の交流や、他校種との交流はどうか。 ○部活動の有用性を、興味関心を惹きつけやすい方法で示すもよい。 ○課題を抱える生徒、家庭に対して、引き続き外部と連携しながら対応してほしい。 ○課題のある生徒への対応として、校内に居場所を設けると効果的である。 【課題】 ○部活動と学習のバランス模範例や、部活動の有用性を示すなどの工夫が必要である ○関係諸機関と連携しながら、生徒や家庭の抱える課題に対応する組織、支援体制づくりを引き続き取り組む	①文武両道を貫徹し高質な品格を持つ生徒の育成 ②教育相談体制の充実と安心安全な環境整備	・全校集会・学年集会等を通じ、文武両道を遂げる意義と心構えを醸成させる継続的な指導 ・部顧問、部員同士による実践例・成功事例の共有と相互支援 ・各行事における生徒の主体的な活動の支援 ・あいさつ励行及び交通マナー遵守等に関する指導 ・個人面談や行事等を通じた人間関係の構築 ・保健だより等による継続した啓発活動 ・SC・SSW・特別支援教育コーディネーターをはじめとした外部機関等との連携 ・研修等をおとした教職員の理解、スキル、組織連携の向上	・部活動加入率は1、2学年ともに90%超か ・学校評価アンケートによる、「本校に入学して良かった」「部活動をおし心身に成長した」「あいさつ励行と交通マナー遵守を遂げた」回答は、いずれも90%超か ・個々の事例に対し適切に対応できたか ・学校評価アンケートによる「困難や挫折を克服しやり遂げる経験をした」回答状況			
3	【現状】 ○探究の外部委託は教職員の協働により負担軽減につながるようにしたい。 ○学校説明会に生徒の企画・運営があるのが興味深く、効果的だと思う。 ○学校の封筒や教職員の名刺に二次元コードがあると、気軽にHPにアクセスできるのではない。 ○生徒、職員、PTAがインフルエンサーとして魅力発信することが必要である。 ○優秀な生徒が集まっており、探究等とおしてチャレンジ精神を高めてほしい。 ○アンケートの電子化は働き方改革につながる。 【課題】 ○探究活動の委託業者との連携推進と教職員の協働進化 ○ユネスコスクールとの生徒間交流の深化 ○県指定「学際的な学び推進事業校」としての成果発信	①本校教育活動の積極的な発信 ②家庭・地域・外部機関との連携による地域・社会に貢献する生徒の育成	・分掌、学年、部活動による学校HP、SNS等を活用した積極的な情報発信 ・本校への理解を深め、魅力を伝える学校説明会、部活動体験会、個別相談の実施 ・中学校への情報提供・資料送付・電話連絡等の充実 ・DXを活用したPTA・後援会活動 ・外部委託を活用し、1、2学年の協働による探究活動の充実 ・グローバルスタディーズプログラムやオーストラリア研修の実施、外部コンテストへの積極参加等による国際教育の充実 ・地域行事への積極的な参加の促進	・HP、SNS等による発信は、質量ともに充実したか ・学校説明会等の参加者による評価は良好か ・中学校との関係及び本校の評価は良好か ・PTA・後援会活動が充実したか ・学校評価アンケートによる「探究活動をおし達成感、貢献感を感じ」回答状況 ・学校評価アンケートにより国際感覚とコミュニケーション力は向上したか			

学校関係者評価
実施日 令和5年2月8日
学校関係者からの意見・要望・評価等